

## 久喜市あゆみの郷事業報告

今年度は、久喜市の定める条例に基づき、関係法令を遵守し、社会福祉法人啓和会の理念と整合性を図りながら、運営規定に定める目的を達成するために以下の事業を実施しました。

### 1. 利用状況と職員体制（平成 28 年 3 月 31 日）

#### （1）利用定員の充足

ア、生活介護	定員 15 名	現員 16 名	（男性 10 名	女性 6 名）
イ、就労継続支援 B 型	定員 15 名	現員 15 名	（男性 9 名	女性 6 名）

#### （2）利用者の状況

##### ①療育手帳の所持状況

	㊤	A	B	C	なし	計
生活介護	9	3	3	0	1	16 人
継続 B 型	1	4	7	1	2	15 人
計	10	7	10	1	3	31 人

##### ②障害程度区分

	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	未判定	計
生活介護	0	0	6	1	7	2	0	16 人
継続 B 型	0	2	6	1	2	0	4	15 人
計	0	2	12	2	9	2	4	31 人

##### ③年齢分布

		10代	20代	30代	40代	50代	60代～	平均
生活介護	男性	0	6	4	0	0	0	27.3 歳
	女性	1	2	0	1	0	2	39.8 歳
就労継続	男性	0	5	2	1	1	0	31.6 歳
	女性	1	1	0	2	2	0	38.3 歳
計		2	14	6	4	3	2	33.1 歳

##### ④利用率の状況

###### ア、生活介護

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	22	20	22	23	22	20	22	21	20	20	21	23	256 日
延利用者数	291	265	305	312	291	294	313	314	272	286	300	345	3,588 人
利用率	88.2	88.3	92.4	90.7	88.1	98	94.8	99.6	90.6	95.3	95.2	100	93.4%

## イ、就労継続 B 型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	22	20	22	23	22	20	22	21	20	20	21	23	256日
延利用者数	322	277	309	318	258	267	291	284	262	248	267	299	3,402人
利用率	97.6	92.3	93.6	92.2	78.2	89	89.1	90.1	87.3	82.6	84.8	86.7	88.6%

### (3) 職員体制

職 種	配置人数	備 考
施設長	1	サービス管理責任者兼務
主任支援員（生活支援員）	1	就労継続支援 B 型
職業指導員	3	就労継続支援 B 型（1名 運転業務兼務）
目標工賃達成指導員	1	就労継続支援 B 型
生活支援員	7	生活介護支援：6名（1名 運転業務兼務） 就労継続支援 B 型：1名（運転業務兼務）
看護師	1	生活介護
事務員	1	

## 2. 利用率の向上

- 生活介護については定員を超える 16 名の契約を行なえましたが、就労継続支援 B 型については、6 月に男性 1 名の就職が実現したあと受け入れができませんでしたが定員の充足は図れ定員減はありませんでした。
- 自閉傾向が強い男性がきっかけがわからないまま 8 ヶ月以上通えなくなっていました。自宅訪問等を継続的に行い、本人の興味関心を引き出すための取り組みを工夫しながらあゆみの郷に対して気持ちが切れないように働きかけ続けたところ今年度の 8 月から通えるようになりました。
- 情緒面で課題を持つ人の長期欠席が目立ちました。生活全般において支援の必要性が高いため、支援センターや計画相談事業所等と連携した支援を行いました。まだまだ課題は多く安定した通所が出来るまでには時間がかかりそうですが、あゆみの郷を拠り所としている様子が見られるので今後も多角的な支援を継続して安定した生活づくりを目指していきます。
- 8 月より送迎サービスを実施し、家族の都合などで休みがちだった人も安定して通えるようになりました。現在 16 名が送迎サービスを利用しています。

## 3. 生活介護・就労継続支援 B 型 共通事項

### (1) 日常生活に関する支援

- 利用者自治会を発足し自分達で「考え」「話し合い」「決めて」「実行」する取り組みを行いました。担当職員 2 名をサポート役として配置し自治会で話し合われた意見や要望等の内容を職員会議で報告し要望の実現に向けて支援しました。話し合いの内容では「職員への意見」や「行事への意見」「部活動の発足」などが話し合われ、部活動については 3 つの部が立ち上がりました。部活動では利用者の指名で職員が顧問として参加し、1 年を通し活動に取り組み

ました。

- ・グループ外出を3回、家族合同での日帰り旅行を1回実施しました。目的地については、いくつかの候補地から利用者に選択してもらい決定しました。また、家族合同による日帰り旅行については作業工賃から積み立てた年間総額金の範囲で決めてもらいました。自分達で働いて貯めたお金で旅行に出かける楽しみを理解してくる人も少なくありませんでした。このことが「働く」ことへのモチベーションとなってくれればと思います。

#### (2) 健康管理に関する支援

- ・健康診断(1回)と保菌検査(2回)を行いました。いずれも特変はありませんでした。
- ・感染予防の一環として予防接種を推奨しました。家庭では受診することが難しい人も多いため、希望者には嘱託医の診察としてあゆみの郷で予防接種を受けられるようにしました。また、手洗い、うがいを励行したこともあり、インフルエンザに罹患した人は1名もいませんでした。
- ・家族の承諾を得たうえで職員の同行を必要とする利用者には通院同行を行いました。正確な情報交換による支援の考え方や職員がいることで安心して診察を受けられることなど双方にとって必要な取り組みとなっています。

### 4. 生活介護

#### (1) 日常生活支援

- ・上手に食事ができず食べこぼしが目立つ利用者には、個人に合った食器の工夫や姿勢保持の介助などに着眼点を置いて支援しました。食事を口に運びやすくなったようで以前に比べると食べこぼす量も減ってきています。
- ・相手の立場に立って介助する意識を徹底するために、職員同士による歯みがきを研修の一環として行いました。これまで習慣的に介助してきたことへの気づきにつながり、その後の介助場面において更に丁寧さを身につけスキルの向上にもつながりました。

#### (2) 作業活動支援

- ・集団での活動を中心としたグループと療育的でより個別性の支援が必要なグループに分かれて活動を提供しましたが、メンバーは固定することなく、その時の個人の状態に応じて柔軟に対応しました。
- ・農耕作業による収穫した野菜を施設前に設置した無人販売所で販売しました。地域の方からも好評で離れた場所にお住まいの方も購入しに来てくれるようになりました。1年間で239,641円の売上でした。
- ・リサイクル作業によるアルミ缶回収では、地域の方が地区内での回収日を決めて収集してくれました。1年間の回収金額は53,379円となり、地域の方のご協力に感謝の一言につきます。
- ・毎月の1人当たりの平均工賃は6,045円でした。
- ・工賃全体の支給状況については下表の通りです。

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月
支給額	72,993円	127,824円	84,940円	106,293円	81,487円	92,514円
10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
85,388円	132,045円	87,363円	106,199円	59,010円	124,544円	1,160,600円

### (3) 余暇支援

- ・ボランティアさんによる軽運動や水泳、買い物外出等を定期的に実施しました。誕生月による外出は各々が希望する内容を取り入れる努力をしましたが、多様過ぎて対応に苦難することもあり見直しが必要となってきました。

## 5. 就労継続支援 B 型

### (1) 社会生活支援

- ・グループホームへの体験利用を希望する利用者への支援を積極的に行いました。体験中は本人が安心できるように随時様子伺いを行い、グループホームの職員と協働で適応が図れるように支援しました。また、土曜開所日に合わせてグループホームの見学会を行いました。
- ・発障協が主催する利用者部会に積極的に参加しました。部会では「防災について」や「権利擁護について」などを参加者で話し合い、自立に対する意識を学びました。

### (2) 企業実習

- ・新しい実習先として女性 1 名が久喜けいわで清掃作業と支援員補助の実習を始めました。他者と上手にコミュニケーションがとるのが苦手な彼女ですが、久喜けいわや支援センターの職員の根気強い関わりで本人も成長し実習を励みに「就職する」という目標に向かって頑張っています。
- ・男性 3 名が職業短期訓練事業を活用し実習を行ないました。2 名は仕事内容に適応できず就職には結びつきませんでした。1 名が就職することができました。
- ・「八甫清掃センター」と「きっちんこすもす」の実習は今年度も継続して行いました。

### (3) 作業活動支援

- ・毎月の平均工賃は 13,603 円で昨年度と比べると 3,979 円の増でした。効率の良い内職作業を取り入れたことが収入増となりました。
- ・毎月の工賃収入額は下表のとおりです。

月 別	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
支 給 額	173,192 円	190,762 円	169,966 円	249,915 円	148,613 円	190,173 円
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
192,738 円	216,983 円	217,060 円	188,298 円	252,771 円	258,198 円	2,448,669 円

## 6. 地域交流

- ・以下の地域行事に参加し地域の方との交流の場としました。
  - 鷲宮コミュニティまつり (平成 27 年 5 月 17 日)
  - 男と女のつどい (平成 27 年 6 月 27 日)
  - 久喜特別支援学校 PTA まつり (平成 27 年 7 月 25 日)
  - 宮代特別支援学校まつり (平成 27 年 7 月 25 日)
  - 鷲宮コスモスフェスタ (平成 27 年 10 月 24 日)

○鷺宮人権のつどい (平成 27 年 12 月 12 日)

※久喜地区、栗橋地区、埼玉北の人権のつどいには作品展示として参加しました。

○ホットハートフェスティバル (平成 27 年 6 月 12 日・平成 28 年 1 月 29 日)

- ・第 3 回あゆみの郷まつりを開催しました。地元の中学校の吹奏楽部や地元サークルに出演してもらいなど地域のまつりを目指して実施しました。当日は 97 名のボランティアに支えられて盛会となりました。来場者は約 215 名でした。
- ・「あゆみだより」を年 4 回発行しました。公共施設を中心に設置してもらい施設の PR に努めました。

## 7. 自主事業

- ・8 月から送迎サービスを実施しました。家族の都合等で休みがちだった人も安定して通えるようになりました。現在 16 名が送迎サービスを利用しています。
- ・原則として月 1 回の土曜開所を行いました。余暇支援を中心とした活動を提供するため、なるべく地域の行事のある日に開所日を設定し地域に出掛けて楽しむように配慮して行いました。
- ・水曜日と土曜開所日に日中一時の受け入れを行いました。利用延べ人数は 14 名でした。

## 8. その他

(1) 実習生、ボランティアの受け入れについては次のとおりです。

### ①施設現場実習の受け入れ

期 間	所 属	人数	延べ日数
平成 27 年 5 月 11 日 ～平成 27 年 5 月 16 日	共栄大学 (介護等体験実習)	1	5 日間
平成 27 年 5 月 25 日 ～平成 27 年 5 月 29 日	埼玉大学 (介護等体験実習)	1	5 日間
平成 27 年 6 月 8 日 ～平成 27 年 6 月 12 日	明星大学 (介護等体験実習)	1	5 日間
平成 27 年 8 月 11 日 ～平成 27 年 9 月 11 日	東洋大学 (社会福祉士実習)	1	22 日間
平成 27 年 11 月 9 日 ～平成 27 年 11 月 13 日	平成国際大学 (介護等体験実習)	1	5 日間
平成 27 年 11 月 16 日 ～平成 27 年 11 月 20 日	埼玉工業大学 (介護等体験実習)	1	5 日間
平成 28 年 2 月 29 日 ～平成 28 年 3 月 14 日	関東短期大学 (保育士実習)	2	22 日間

## ②進路体験実習の受け入れ

期 間	所 属	人数	延べ日数
平成 27 年 7 月 21 日 ～平成 27 年 7 月 23 日	宮代特別支援学校	1	3 日間
平成 27 年 7 月 27 日 ～平成 27 年 7 月 31 日	久喜特別支援学校	1	5 日間
平成 27 年 8 月 3 日 ～平成 27 年 8 月 7 日	久喜特別支援学校	1	5 日間
平成 27 年 8 月 24 日 ～平成 27 年 8 月 28 日	久喜特別支援学校	1	5 日間
平成 27 年 9 月 2 日 ～平成 27 年 9 月 4 日	鷺宮西中学校	2	6 日間
平成 27 年 9 月 9 日 ～平成 27 年 9 月 11 日	鷺宮西中学校	2	6 日間
平成 27 年 11 月 18 日 ～平成 27 年 11 月 20 日	宮代特別支援学校	1	3 日間

## ③ボランティアの受け入れ

271 回の受け入れを行い、延べ人数は 408 名でした。地元の方が中心で毎日の活動（作業等）支援を応援してもらいました。作業検品や作品補助など職員の業務軽減にもつながり、利用者も親しみと信頼を持ちながら毎日の活動に取り組むことができました。

- (2) 計画相談事業所との連携の強化に努めました。とりわけ、支援の困難性の高い人については個別支援会議を開催し、関係事業間で共通の課題認識を図り支援の対応性の統一と役割分担等を決定して良質な支援を目指して取り組みました。
- (3) 消防署立ち会いのもと消防総合訓練を 2 回実施しました。災害想定については火災だけではなく、地震や竜巻などの災害も想定して実施しています。また、これまでの事故報告やヒヤリはっとならから傾向と課題を分析し対応策に取り組みました。
- 利用者夕会の時間には、天候不順による外出時の事故や夜間、休日などに犯罪や事故に巻き込まれることのないように、随時危険予防についての話をして安全に対する意識の向上と理解に努めました。

## 【重点項目】

### 1. 災害危機管理体制の構築

福祉避難所として備蓄など一応の準備は行いましたが十分とは言えず、対策不足のため課題が山積している状態です。

## 2. 関係機関との連携

生活に課題を抱える人や環境に不応を呈している人の支援については、関係機関で集まり個別の支援会議で再アセスメントを実施し、支援方針の見直しや具体的な支援方法の確認を行うなど連携の強化を図りました。また、他事業所からあゆみの郷のケース会議等に参加してもらったり、通院の同行をお願いするなどして客観的な視点からの意見を参考にした支援を行うことができました。

## 3. 人材の育成

今年度も OJT を重点に支援の質の向上を目指して努力しました。とりわけ、虐待防止に関する研修や指導において力点を置き、日々の支援の在り方を見直しや意識の向上、専門性を高めるための支援スキルの獲得に努力しました。OFF—JT については下記の通りです。

研修名	主催者	日付	参加者
埼玉県発達障害福祉協会 行政説明	埼玉県発達障害福祉協会	平成 27 年 4 月 7 日	施設長
埼玉葛北地区自立支援協議会 就労支援部会	埼玉葛北自立支援協議会	平成 27 年 6 月 9 日	山崎
関東地区福祉協会職員研修	関東地区福祉協会	平成 27 年 7 月 8 日	施設長
サービス管理責任者研修	埼玉県障害者福祉課	平成 27 年 11 月 5、6 日	河野
関東地区福祉協会種別代表 者大会	関東地区福祉協会	平成 27 年 11 月 10、11 日	施設長
スーパービジョン基礎研修	埼玉県社会福祉協議会	平成 27 年 12 月 1 日	河野
埼玉県障害者虐待防止・権利 擁護研修	埼玉県	平成 28 年 1 月 16、18 日	齋藤
施設長会議	埼玉県発達障害福祉協会	平成 28 年 1 月 21 日	施設長
施設見学会	埼玉県発達障害福祉協会 在宅支援部会	平成 28 年 2 月 8 日	櫻井